



牧草の品質向上で所得UP！

短い秋が過ぎて、初霜が気になる季節となりました。農作業の秋じまいで忙しい時期ですが、作業がひと段落して落ち着いたら、来年の経営計画について考えてみませんか？

今月号は、品質の良い牧草を作ることで経費削減、所得UPするお話を紹介します。

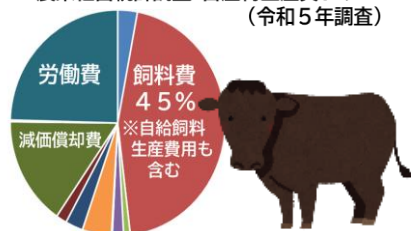
1. 畜産経営で最も費用がかかる飼料費を単純に減らさない

飼料などの資材高騰により生産費が増えている状況ですが、特に飼料費は経費に占める割合が高いので、経費削減の対象になりがちです。しかし、必要な栄養量を摂取しないと繁殖成績が悪くなったり、子牛の発育が遅れる原因になります。

生産費の半分を占める飼料費をどう減らすかが、所得向上のカギとなります。

子牛1頭当たりの生産費

農業経営統計調査 畜産物生産費より
(令和5年調査)



(1) 繁殖雌牛は、分娩2か月前～子牛の離乳までの間、雌牛の体を維持する栄養量に加えて胎子の発育や授乳中の母乳生産などに必要な栄養量が増えます。

(2) 給与する飼料は、各ステージの牛が必要とする栄養量を確保する必要があります！

2. 牧草の栄養価は刈取時期で変わる

牧草は、生育ステージで栄養価が変わります。

出穂後は生育ステージが進むにつれて蛋白質などの成分量が減り、逆に繊維の割合が高くなります。また、消化率も低下するので栄養価はどんどん低下します。(表1)

適期に収穫した牧草と刈遅れた牧草では栄養価に差が出ます。繁殖雌牛や子牛のステージにより牧草の使い分けを検討しましょう！

表1 生育ステージによる栄養価の違い(オーチャード 1番草、サイレージ)
(乾物中、%)

時 期	粗蛋白質 (消化率)	粗脂肪 (消化率)	粗繊維 (消化率)	TDN
出穂期	13.8 (62)	4.4 (61)	31.0 (69)	61.2
開花期	11.7 (56)	5.0 (51)	34.3 (66)	56.4
結実期	7.5 (53)	2.7 (61)	36.7 (45)	46.7

栄養価は
時期が
進むと
減少

粗繊維は
逆に増え
消化しに
くい草に

奥州市・一関市の
**R7年の出穂期(オーチャード
グラス主体)は5月中旬**

でした！

牧草の概ね
半分が出穂

穂が開花
おしべ抽出

穂に種子を
形成



出穂期

開花期

結実期

3. 給与する牧草の品質が向上すると濃厚飼料を節約できる

- ・繁殖雌牛(授乳期の90日)
オーチャードグラス乾草の出穂期と結実期を
給与した場合の配合飼料費を比較

授乳期の90日間のみを比較した場合

配合飼料費(1頭当たりの差額)

⇒ 1日90円、授乳期全体 8,100円

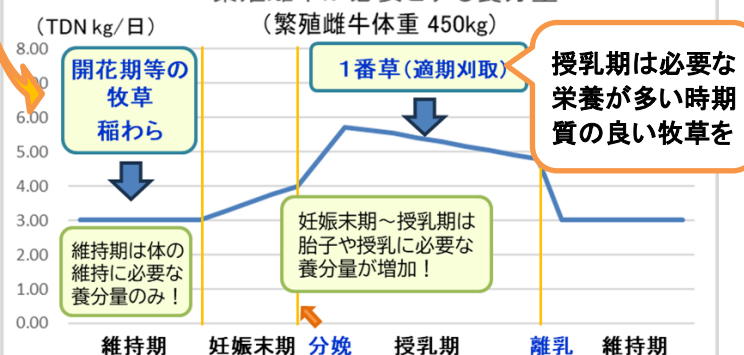
給与量 1kgの違いで
1頭当 8,100円
全頭が分娩する場合
20頭で 162,000円
の差が！

表2 牧草刈取時期の違いによる授乳期の配合飼料費
(1日当、kg、円)

	給与飼料	給与量 (kg/日)	配合飼料費 (1日当たり)	配合飼料費 (授乳期全体)
出穂期 (刈取適期)	配合牧草	3.5 9.0	315	28,350
結実期 (刈遅れ)	配合牧草	4.5 9.0	405	36,450

- ・維持期(離乳後～妊娠中期)は体の維持に必要な栄養量のみ！
品質の良い牧草では栄養過剰になりやすいため繊維含量の高い牧草(開花期等)を給与
- ・子牛は、体と胃を大きくするため離乳から出荷までの全ステージで品質の良い牧草を給与

繁殖雌牛が必要とする養分量
(繁殖雌牛体重 450kg)



子牛が必要とする養分量(去勢)



岩手県肉用牛飼養管理マニュアル(令和4年6月)
日本飼養標準 肉用牛(2022年版)より

牧草の品質向上のポイント

★ 収穫適期の刈取となるよう作業スケジュールを組み立てる

※ 草地面積が大きい、天候不順等で作業が遅れる場合は、繁殖牛(分娩2か月前～子牛離乳)と子牛用の牧草(CP高、品質が良い等)を生産する圃場を優先して収穫調製作業を実施する

★ 早春(萌芽期)の適切な施肥により、1番草の確保に努めましょう

※ 奥州、一関の萌芽期は3月下旬～4月上旬(平均気温5℃から生育開始)

《子牛を大きく育てよう！》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

○ 哺育牛の特性

小さく生まれ、初期に大きく増体

黒毛和種子牛はホルスタイン種と比較して、生時体重は10kg程小さいですが、生後1か月間の増体率は約2倍です。

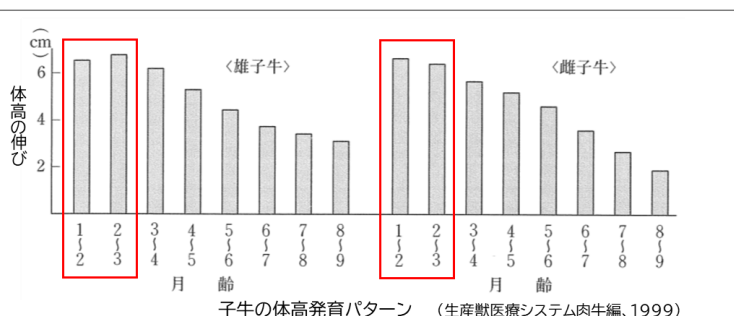
黒毛和種とホルスタイン種の雌子牛における体重の推移と増体率

	黒毛和種	ホルスタイン種
頭数(頭)	18	13
生時体重(kg)	29.6±7.0	41.7±5.5
(A)		
30日齢体重(kg)	47.5±7.0	53.9±8.6
(B)		
増体率(%)	60.5	29.3
(B-A)/A		

(佐野, 2009)

発育順序は、脳・神経→骨格→筋肉→脂肪

骨格のうち、四肢の先端が初期に発育するため、生後3か月齢までが最も体高が伸びる時期になります。



マニュアルの
ダウンロードは
こちら→



哺育期にしっかり栄養を吸収した子牛は、グンと成長します！母乳は足りていますか？子牛が寝ている場所は快適な空間ですか？自身の哺育管理を確認してみましょう。